

# ハチ博士の ミツバチコラム

13



京都大学大学院  
環境学博士  
教授 坂本文夫

## 蓮の花とミツバチ

蓮（ハス）の名前は蜂巢（はちす）から来たと言われています。そういえば、蓮の実が入った花床はたくさん穴が開いていて、蜂の巣に似ています。朝早く音を立てて花が開き、午後にはその花が閉じ、それを3回繰り返して4日目に花弁は散るとのこと。

きれいな水より泥水の中から咲く花が大きくて綺麗と言うことで、仏教の教えにもつながり、仏教のシンボリックな花であることはご存じの通りです。

ミツバチが蓮の花を訪花している写真を時々見かけます。大きい花だから花蜜も多いのだろうと想像していましたが、調べてみると蜜源ではないようです。ミツバチは花蜜ではなく、花粉を集めに蓮の花を訪れているようです。改めて写真を見ると、黄色の花粉団子を後足に付けています。

栄養の面から言えば、花蜜は炭水化物で、生殖や子育てに必要なタンパク質や核酸は含まれていません。一方、花粉にはこれらの栄養素が含まれているため、花粉集めは仲

間を増やすためにとても大事な仕事なのです。女王蜂の一生の食べ物であるローヤルゼリーや幼虫の餌（蜂乳）は花粉と蜜を原料にして働き蜂が生産します。花々は受粉の返礼として花蜜だけでなく、過剰に生産した花粉もミツバチ達に与えていることになり、自然の妙に感嘆せざるを得ません。



イラスト おおくぼひとみさん